

## セキュリティ人材育成を通じて、さらなる社会の安心・安全に貢献

## ■概要

ナショナルサイバートレーニングセンター内に設置されたサイバートレーニング事業推進室は、当センターにおけるサイバーセキュリティないしICTに係る人材育成事業を円滑に推進するための各種業務を担当する部署である。

当センターは、全国規模で、毎年100回以上、累計約8,000人の受講者に対し、実践的サイバー防衛演習「CYDER（サイダー）」を実施してきただけでなく、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連組織のセキュリティ関係者に対しても「サイバーコロッセオ」を実施している。さらに、若手セキュリティイノベーター育成プログラム「SecHack365（セックハック サンロクゴ）」も実施している。これら当センターが実施する演習等の事業を執行し、NICTの研究・開発成果を社会に還元するためには、以下の多種多様な業務を行う必要がある。

- ・演習等予算の確保及び関係省庁等連絡調整
- ・事業方針の企画及び立案
- ・年間演習計画の策定
- ・予算及び要員等執行管理
- ・演習等支援業者の選定、契約及び管理
- ・演習会場、演習設備及び募集システム等管理
- ・受講生の募集、受付及び受講者決定
- ・周知啓発、広報及び取材対応
- ・外部問い合わせ、見学及び政務等の視察等対応
- ・事業別実行委員会等（アドバイザリーコミッティー、CYDER実行委員会、サイバーコロッセオ実行委員会及びSecHack365実行委員会）事務局運営及び実施

これらの業務は、当センターの事業執行の屋台骨を担う必要不可欠な業務であるうえ、事業規模の拡大に伴い、その業務量が飛躍的に増えているとともに、重要性は一段と高まってきている。

このような状況下で、当事業推進室は、適時、その人的資源を確保し、組織を補強しながら業務を行い、国内最大規模の演習にまで成長したCYDERや、平成29年度から実施しているサイバーコロッセオ及びSecHack365の事業を引き続き推進し、以下の成果を得ることができた。

## ■平成30年度の成果

## 1. CYDER演習の着実な広がり

平成25年度に開始されたCYDER演習は、当初、総務省を実施主体として東京都を中心に年間受講者200人規模で実施されてきたが、NICTに移管された平成28年度以降、対象者に応じた演習シナリオを用意するなどし、より多くの受講機会を確保するための取組をした結果、その規模を飛躍的に拡大してきており、平成30年度も全47都道府県で合計100回以上の演習を実施し、累計受講者数が8,000人に迫るなど、国内最大規模の演習に成長した（図1）。

平成30年度は、重要社会基盤事業者向けのB-3コースを新設するとともに、実費相当分の受講料を負担していただくことで、それまで受講できなかった民間企業等からの受講も受け入れただけでなく、平成29年度から実施してきた省庁への広報活動が実を結び、文部科学省が大学関係者向けに実施するサイバーセキュリティ演習事業を当センターが受託して合計113名に対する演習を実施するなど、CYDER演習の裾野は着実に広がってきている。

また、CYDER演習受講の魅力を高めるため、平成30年度から（ICS）<sup>2\*</sup>が提供する資格の認定継続に必要なCPEクレジット（継続教育単位）付与対象の演習となり、CISSP認定資格保持者がCYDER演習を受講する動機付けを強化した。

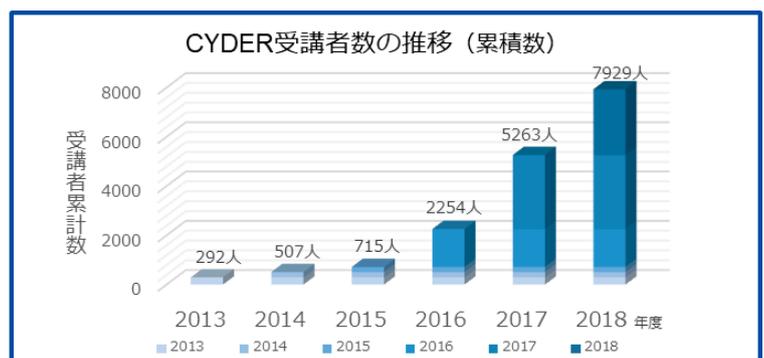


図1 CYDER演習累計受講者数の推移



図2 SecHack365 Returns 2018の様子 ※セックハックのホームページ、リターンの開催レポートから引用

## 2. サイバーコロッセオ…コロッセオカレッジ新設

平成29年度に開始したサイバーコロッセオは、平成30年度から、その育成機会拡大のため、育成人数枠を50名から100名に拡大するとともに、オンライン学習コンテンツの常時提供を開始し、予習復習の時間を拡充した。また、学習効果が高い実機演習時間を確保するため、平成29年度から実施していた初級・中級・準上級のコース別に実機演習等を行う「コロッセオ演習」に加えて、受講者が自身の業務やスキルに合わせて希望の講義演習を選択受講できる講義演習群「コロッセオカレッジ」を新設した。

以上の取組の結果、平成30年度は、コロッセオ演習に合計137名、コロッセオカレッジに合計347名が参加した。なお、平成30年度から、サイバーコロッセオも前記CPEクレジット（継続教育単位）付与対象の演習となっている。

## 3. SecHack365 …コース制の導入と修了生コミュニティの構築

2年目となったSecHack365では、多様な受講者に対する柔軟な指導を行うためコース別研修を開始し、応募時から3つのコース別に募集し、受講者（トレーニー）のニーズと指導内容とのミスマッチを解消した。こうして選抜された合計50人のトレーニーに対し、平成30年5月から平成31年2月までの間、合計6回の集合研修を実施した。また、今後も輩出されることが見込まれる修了生コミュニティの構築にも着手し、修了生向けのコミュニケーションツールの導入、修了生を対象としたイベント「SecHack365 Returns」を実施するなどした（図2）。

また、平成29年度生と平成30年度生から選抜した6名を世界最大級のイノベーションイベントSXSW（サウス・バイ・サウスウエスト）のハッカソンに昨年度に続き派遣し、3名はスポンサー賞を受賞した（図3）。



図3 SecHack365成績優秀者による海外派遣SXSWハッカソン出場の様子 ※ナショナルサイバートレーニングセンターのホームページ、4月1日付け「参考資料」38ページ添付の写真を引用



図4 SecHack365成果発表会場を視察する佐藤ゆかり総務副大臣の様子（総務省HPより） ※3月8日の「総務副大臣の動き」のページから引用

そして、平成31年3月の最終成果発表会においては、受講者が、1年間を通しての研究・開発、作品作りの成果として、「組み込み向けハイパーバイザを用いたCPU命令疑似拡張によるセキュリティ機能の開発」、「マイナンバーカードで描くCivicTechの未来」、「プライバシーに配慮したTwitterクライアント“PEACE”」等、優秀な作品を多数発表した。

この最終発表会には、報道関係者やサイバーセキュリティ関係者が多数来場し、受講者らに対し、発表内容等に関する取材・質問をするなどし、新しい若手ICT人材との交流を深めていたほか、佐藤ゆかり総務副大臣も視察に訪れ「SecHack365での経験をステップとして、さらに大きな世界へ羽ばたいていただきたい」と激励の言葉を贈られた（図4）。

\* (ISC)<sup>2</sup> (International Information Systems Security Certification Consortium) は、ベンダーフリーであり、知名度と信頼の高いセキュリティ国際資格のひとつ、CISSP (Certified Information Systems Security Professional) などの国際資格を提供している。